

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	大阪大学
整理番号	A②-6
事 業 名	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 S	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
<p>コメント</p> <p>本事業は、北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学及び延世大学校の日中韓の計6大学でコンソーシアムを組み老化関連疾患等の世界的健康問題の解決に向けた医学研究のグローバルリーダー人材の養成を目的としている。</p> <p>運営面では、各連携大学の教員で構成する国際教員会議を設置、初年度から開催する中で、単位互換や成績管理、シラバス等の教学上の事項をまとめ、質の保証を伴う大学間交流の枠組みを形成した。その枠組みの中で短期、中期の交流を進めるとともに、長期派遣・受入による我が国初となる医学分野における博士課程ダブル・ディグリープログラムの協定を中韓4大学と締結し、令和元年度より2名の派遣、2名の受入を開始した実績は高く評価できる。参加大学の内部質保証として、参加学生からの意見聴取、担当教員によるレビュー・自己評価を行い、毎年行われる国際教員会議で報告・共有され、外部評価委員会による外部評価と併せて、課題の抽出・改善に役立てられている。また、年1回の国際シンポジウムを回り持ちで開催し、同時に開催される国際教員会議に加え、平成29年度に発足した同窓会の総会をパッケージとして実施していることも、事業の共有・改善・普及の観点からよく考えられた取組であると評価できる。中間評価における留意事項に関しても、概ね適切に対応していると判断できる。</p> <p>一方で、短期・中期・長期を組み合わせたプログラム全体で、派遣60名の計画に対して実績は57名、受入60名の計画に対して実績は104名と、概ねあるいは大きく実績が上回っていることは評価できるが、「単位取得を伴う3か月以上の交流学生数」に限れば派遣・受入ともに35名の計画に対して、派遣4名、受入6名と大きく下回っている。ダブル・ディグリープログラムが順調に始まっていることから、長期プログラムを今後どのように展開させていくか、更なる検討が望まれる。今後の取組の中で、タイのマヒドン大学、中国の広東薬科大学が加わる計画が進んでいることから、大阪大学における継続的なプログラムの充実・拡大に大きく期待したい。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	